

| | |
|--------|--|
| 目指す学校像 | 子どもたちの自信をはぐくみ、保護者・地域の信頼に応える学校 ～笑顔が輝き、あいさつが響き合う仲町小～ |
|--------|--|

| | |
|------|---|
| 重点目標 | 1 授業で身に付けた力を生かしてたくましく生きるため、自分の考えをもち共に学び合う教育活動を行う。 2 ルールやマニュアル等に則した安全管理と安全指導を行う。 3 学校、家庭、地域が相互に理解し、信頼できるようにするため組織を活用する。 4 子どもの心に寄り添い、学び続ける教師・教師集団を構成する。 |
|------|---|

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

| | | |
|-----|---|--------------|
| 達成度 | A | ほぼ達成 (8割以上) |
| | B | 概ね達成 (6割以上) |
| | C | 変化の兆し (4割以上) |
| | D | 不十分 (4割未満) |

| 学校自己評価 | | | | | | | 学校運営協議会による評価 | | |
|--------|--|--|--|--|-----------|-----|--------------|---------------------|--|
| 年度目標 | | | | 年度評価 | | | 実施日 令和 年 月 日 | | |
| 番号 | 現状と課題 | 評価項目 | 具体的方策 | 方策の評価指標 | 評価項目の達成状況 | 達成度 | 次年度への課題と改善策 | 学校運営協議会からの意見・要望・評価等 | |
| 1 | (現状) ○全国学力・学習状況調査において、国語・算数の学力は全国や市に比べて高い。また、主体的・対話的で深い学びについて肯定的な回答が多い。地域社会に関わる活動についても、市に比べると高いが、7割程度である。 ○学校評価において、「分かりやすい学習指導について」の項目で、昨年度同様肯定的な回答が95%を超えた。自由記述では、個に応じた指導・オンライン学習への要望が見受けられた。 (課題) ○校内研修の成果を共有し、「ゴールモデル・道のりモデル」を活用し、児童が自らの考えをもち共に学び合う活動の充実を図る必要がある。 ○一人1台タブレット等のICT機器の活用により、アクティブ・ラーニング型授業や個別最適な学びを積極的に行う必要がある。 | ・教師の専門性を生かした授業における指導の充実 ・個別最適な学びを支える一人1台端末の活用の充実 | 1 教科担任制を6年生で、通年実施する。 2 全国学力学習状況調査の振り返り(1学期)と、学力向上カウンセリングの実施(2学期)と授業改善を行う。 1 3年生から「教科横断的」「PBLの手法」「プログラミング教育」を取り入れたSTEAMSTIMEを実施する。 2 学校内外でのタブレット活用頻度を高め、学習意欲や学力に応じたスタディサプリを朝学習や授業、家庭学習で実施する。 | 1 全国学力・学習状況調査において、国語、算数が、令和3年度の市平均以上を維持することができたか。 2 学校自己評価の児童の授業評価において、肯定的評価を維持できたか。 1 学校自己評価の保護者の授業評価において、肯定的評価を維持できたか。 2 教員のICT機器活用アンケート(CanDo調査)において、9割以上の実施になったか。 | | | | | |
| 2 | (現状) ○いじめは毎年数件起きているが、組織的な対応や継続的な見守りによって解消されている。 ○欠席が長期化する児童も数名いて、担任だけでなく学年等で組織的に対応をしている。 ○心と生活のアンケートや簡易アンケートを実施し、積極的に子どもの悩みの把握に努めている。アンケートによる要面談者は、いずれの学年も30名程度いる。 ○食物アレルギーの児童は約30名おり、エビペン持参の児童もいる。 (課題) ○トラブルや事故等について、管理職や主任への報告・連絡・相談・確認を迅速に行う必要がある。 ○専門職員等と組織的に対応する必要がある。 | ・組織的な対応によるいじめの撲滅 ・学校事故(交通事故・食物アレルギー)0にする指導の充実 | 1 心と生活のアンケート等(毎学期)の結果を受けて、迅速な面談と記録を実施する。 2 日常の報告・連絡・相談・確認と、緊急時には組織的な対応を行う。 3 道徳の時間を中心とした考える道徳教育を実施する。 1 交通事故や食物アレルギー事故の未然防止のため、日々の生活指導と計画的な安全教育を実施する。 2 事故発生時に適切な対応を行うための研修を計画的に実施する。 | 1 心と生活のアンケート設問3「生きていてもよかったと思う」に該当する児童に、即日面談を実施したか。 2 学校自己評価の教員のいじめ対応についての評価において、肯定的評価を維持できたか。 3 授業参観・学校公開等で年に1回以上、全学級が道徳を公開しているか。 1 学校自己評価の教員・児童・保護者の学校安全の評価において、肯定的評価を維持できたか 2 安全に関わる研修や訓練を全て実施することができたか。 | | | | | |
| 3 | (現状) ○昨年度学校運営協議会を立ち上げ、学校の教育目標の具現化に向けた熟議として、①挨拶のできる子どもの育成、②地域と共に生きようとする姿勢の育成が挙げられた。 ○SSNの活動を生かし、保護者や地域の方々と具体的な活動について検討、実施している。 ○令和5年度当初に10教室確保できる校舎の増築工事を、11月から開始する。 (課題) ○挨拶の励行や郷土愛を育むことを学校、家庭、地域が具体的に取り組むことが課題である。 ○安全で学力向上を推進できる学習環境を備えた校舎を増築することが課題である。 | ・学校運営協議会等と連携した児童の登下校の安全確保とマナー向上の実施 ・地域や関係諸機関と連携し、学びの充実に向けた学習環境の整備 | 1 学校・家庭・地域が連携・協働する事業を実施する。 2 保・幼連携・小・中一貫を検討する機会の設置と協議を実施する。 1 地域と関係機関と連携・協力して、令和5年度から使用する校舎を増築する。 2 地域人材の積極的な活用と、新たな地域教材の開発を行う。 3 迅速な情報発信のために、学校安心メールを利用する。 | 1 学校自己評価の地域との連携についての評価で、保護者の肯定的評価が向上したか。 2 常盤中学校区の教員に授業を公開し、研究協議を実施できたか。 1 令和5年4月に10教室を備えた校舎を増築することができたか。 2 学校自己評価の地域との連携についての評価で、教員の肯定的評価が向上したか。 | | | | | |
| 4 | (現状) ○職員研修は本校の伝統である。本年度は市委嘱の「主体的・対話的で深い学び」の研究発表を体育・特別活動で行う。 ○昨年度、月平均4.5時間以上の在校時間勤務をした者は3割いた。 (課題) ○研修内容を共有化・日常化することで指導力を向上させることが課題である。 ○初任者、臨任者などの若手教員を育成することが課題である。 ○教職員一人一人が時間を意識した働き方をするとともに、学校全体で業務改善と平準化を進め、働き方改革を推進する必要がある。 | ・「主体的、対話的で深い学び」の定着に向けた研修の実施 ・ストレスや負担感を軽減する質的業務改善等の実施 | 1 1月31日に研究発表会(体育・特別活動)を実施する。 2 指導者を招聘し、2回の授業研究と協議会を実施する。 1 日々教育環境と教育活動の見直しと改善を行う。 2 教職員自身の出退勤時刻の把握と、管理職の指導助言を実施する。 3 効果を高効率化を進めるために、校務支援システムを利用する。 | 1 学校自己評価の教員の授業評価において、肯定的評価を維持できたか。 2 研究発表会の参加者アンケートにおいて、研修内容の肯定的回答数が9割になったか。 1 時間外在校等時間が年平均45時間以上の教職員が減少できたか。 2 人事異動調書の職場環境についての否定的回答数が減少したか。 3 人事異動調書の仕事量・満足度についての肯定的回答率が向上したか。 | | | | | |

